

連載

# ブラックス マネー

## 一ノ宮美成 & グループ・K21

### 漢検協会の闇

【前編】

漢字能力検定で知られる「公益財団法人日本漢字能力検定協会」(以下・漢検協会、本部・京都市東山区、代表理事会長兼理事長・高坂節三氏)と京都市との不自然な土地賃貸契約が3月29日と4月9日に参議院で立て続けに取り上げられた。何が問題になっているのか。

まず3月29日、参院文教科学委員会に参考人として漢検協会の高坂理事長が出席。民進党の大島九州男(く

すお)参院議員が同理事長に質問したのだ。

そもそも、漢検協会は2016年6月、京都市東山区に「漢検ミュージアム」を開館。漢字にまつわる資料を所蔵する図書館などのほか、漢検協会本部事務所も併設されている。

施設は元京都市立弥栄中学校跡地に建てられたが、大島参院議員の質問や京都市の公開資料などによると、漢検協会側は施設建設に23億6000万円の資金を投入したほか、京都市とは土地借地権料として60年間で2億6100万円、保証金3億円の賃貸契約を締結。加えて、年間7835万円(坪当たり3510円)の家賃を支払っている。契約は入札で行われた。

京都市所有地の賃貸料は坪1270円。これと比較すると漢検協会施設の家賃は約3倍も高い計算になる。

一方、漢検協会の理事らが名前を連ねる別のNPO法人「京都文化協会」(京都市下京区、田辺幸次理事長)も元京都市立成徳中学校校舎3階(約60坪)を10年10月から20年9月までの10年間、賃貸契約を結んでいるが、こちらの坪単価は738円と格安。特例の値引きが行われ、相場の半額だ。

しかも、保証金0円で保証人なし。借地権料も0円。契約は入札なしの随意契約だった。そのうえ、賃貸前に京都市の負担で元成徳中学校の改築工事が2億円から2億5000万円かけて行われ



一ノ宮美成

1949年大分県生まれ。同志社大学文学部卒。新聞記者を経てフリージャーナリストに。グループ・K21との著書に『闇の帝王(許永中)』『京都の裏社会 山口組と王将社長射殺事件の聖域』『同和利権の真相①~④』(以上、宝島社)、『橋下「大阪改革」の正体』(講談社)など多数。



京都文化協会

ている。

京都文化協会は、屏風や襖絵のデジタル複製品の制作が主たる目的のNPO法人。こうしたことから、大島参院議員は「同じ公立学校の跡地なのに賃貸の坪単価が全然違う。保証金と保証人も片やゼロ、片や3億円。決定方法も入札と随意契約で違う。いろんな差異がある。どこかの意図が働いているのではないかと懸念される契約だ」と疑問を投げかけ、契約関係者が共通の人物であることも明らかにした。

例えば、京都文化協会設立時の同協合理事長は元京

都市議のK氏、元成徳中学校3階の賃貸契約時の同協合理事長はA氏、貸し手で

## 漢検協会のドロドロ内紛劇

ある当時の京都市の教育長は、現漢検協会理事のT氏である。

一方、弥栄中学校跡地を漢検協会が借りる際の契約関係者には、漢検協会専務理事・K氏、開発部・A氏、T元京都市教育長が漢検協会理事として名前を連ねていたという（※編集部・K氏、A氏、T氏は同一人物）。大島参院議員は「何が不思議かというと、もし私が学校を借りる当事者なら、（先に借りた成徳中学校跡地より弥栄中学校跡地の方が）もっと広い土地になるんだから、（坪単価等で）これよりも安く交渉しようね、というのが普通と思うがどうか」と高坂理事長に問い質した。

これに対して、高坂理事長は「成徳中学校跡地に関する経緯については、我々としては一切関わりを持たなかったし、その時点では存じあげなかった」と答え

のが当然ですが、高坂理事長の国会答弁を聞いてみると、まるで京都市の言いなり。摩訶不思議な契約です。条件が同じなのに他と比較して賃貸料が特別に高すぎるとなれば、京都市に利益を与えるため、漢検協会に損害を与えた任務違反になりますね」

実は、漢検協会と人脈的に深い関係にある京都文化協会は過去に、京都市教育委員会が同協会から賃貸料を3年半も取らずにいたことが発覚しているのだ。この事実が14年2月にマスコミ報道で明らかになり、同協会に甘い京都市教育委員会の不正な行政が世間に知れることとなった。

契約開始時の10年10月から発覚するまでの間、最初から特例で半額にした賃貸料を一度も請求しなかった。未徴収の賃貸料は約175万円に上り、光熱費等も徴収していなかった。当時、市民

が元成徳中学校の校舎利用に関して、京都市教育委員会が京都文化協会など2団体に不適切な減免をしているとして、住民監査請求が出されていたのだ。

漢検協会をめぐっては、創業者の大久保昇元理事長らが約2億6000万円の損害を与えたとして背任罪で京都地検に起訴され、最高裁で実刑判決が確定。大久保氏の後任として'09年4月、鬼追明夫元日弁連会長が理事長に就任したが、1年の任期満了で退任した。

'10年4月には、日本相撲協会評議員会議長を務める池坊保子元文科副大臣が理事長に就任したが、'11年3月に任期途中で解任されるなど、漢検協会はドロドロの内紛劇が続いた。



漢検主催の「今年の漢字」